

〈原著論文〉

# 保育内容(表現)の授業における演習の教育効果に関する一考察

Educational Effect of Active Learning in Methods and Skills of Childcare : Expression

辻 ゆき子<sup>1</sup>

## 要旨

本学の保育内容(表現)の授業においては、その達成目標として3つの柱を設けている。目標を達成すべく座学の他に多くの実践演習も行っている。本研究は体験学習としてのそれらの演習が3つの達成目標のうちどの項目でより高い教育効果をあげているかを学生のアンケートから探り、今後のより効果的な演習の有り方を検証する目的で行った。結果として、学生自身がいろいろな気付きの中で乳幼児の表現の本質についての学びを深めることが可能な演習、自分自身の感性や表現力の育成に効果的な演習、それに近いが教材研究や保育技術向上の上で効果的な演習があることが明らかとなり、実習を経験している学生としていない学生では、捉え方に若干の差があることもわかった。

キーワード：保育者養成, 保育内容(表現), 体験学習, 実践演習, 教育効果  
Childcare Worker Training, Methods and Skills of Childcare : Expression,  
Active Learning, Practical Exercise, Educational Effect

## I. はじめに

1989年の幼稚園教育要領、及び1990年の保育所保育指針の改訂により、それまで6領域[健康・社会・自然・言語・音楽リズム・絵画製作]だった保育内容が5領域[健康・人間関係・環境・言葉・表現]に再編された。小学校の教科名に近い「音楽リズム」と「絵画製作」をやめ、総合的な表現として捉え直す意味で新たに「表現」という領域が示された<sup>(1)</sup>。

無藤(2007)は『『表現』』という音楽リズム・絵画・造形・舞踏・演劇等のいわゆる表現活動のことだけを考えやすい。しかし乳幼児における『表現』は心情や感情を多様に経験すること、そして自分の中にある気持ちやイメージを自由に外へ押し出そうとすることである。幼児期の最も大切なことは、生活のあらゆる側面で、自由に自己表現したい、してもいいんだという自由感を育てることである。』としている<sup>(2)</sup>。

幼稚園教育要領は1998年の第3次改訂及び2008年の第4次改訂を経て、また保育所保育指針においては1999年の第2改訂及び2008年の幼稚園教育要領と同年の第3次改訂を経て、今回2017年3月に幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型

認定こども園教育・保育要領の3法令の改訂が同時に告示された。今回の改訂では、幼児期に育てたい力を明記し、実際の指導の方向性や評価のあり方、教育課程の計画の考え方なども具体的に記されている<sup>(3)</sup>。文部科学省中央教育審議会答申(2016)の幼児教育における「見方・考え方」によると、「幼児がそれぞれの発達に即しながら身近な環境に主体的に関わり、心動かされる体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、諸感覚を働かせながら、試行錯誤したり、思いめぐらすことである」としている<sup>(4)</sup>。

## 1. 保育者養成校としてのカリキュラム

保育者養成校は、保育内容(表現)のカリキュラムをどのように考え、授業展開しているのだろうか。

山内(2017)は、保育内容「表現」では、特に保育実践者が指導や展開の仕方に難しさや疑問を感じやすいとの指摘がある。その要因の一つに、養成校においては分野別に習得した技術や技能を保育の場においては総合的に捉えなおす必要があると述べている<sup>(5)</sup>。

1 Yukiko TSUJI

千里金蘭大学 生活科学部 児童教育学科

受理日：2018年9月7日

査読付

安村 (2010) らによると、保育者養成校の保育内容表現のシラバス内容の検証からは、表現の各分野の特性を重視した内容—つまり音楽・造形・身体表現—で展開されているものが多くみられ、分野を超えた総合的な制作・発表の経験を授業内で行うところが少数であり、3分野の表現を統合したねらいと内容で展開する事が必要だとしている<sup>(6)</sup>。

寺岡 (2018) らは、「音楽表現法」「身体表現法」「造形表現法」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関連したものであり、組み合わせる時により大きな効果を発揮するものであり、3つの要素を総合されたものとしての総合表現の必要性をあり方について論じている<sup>(7)</sup>。

松下 (2018) らは、3つの表現が絡み合うことにより、子どもの表現内容も一層広がり幅が生れると共に、身幼稚園教育要領で示された領域「表現」の内容、ねらいを網羅できることがわかったとしている<sup>(8)</sup>。

劉麟玉 (2018) らによると、表現と感性との関係を捉え、表現領域の指導においては、歌ったり、楽器を演奏したり、描いたりするための技術よりも、どのような経験を与え、どのように思考させるかといった、「表現したいもの」の源泉となるイメージをいかに豊かにもたせるかが重要になると述べている<sup>(9)</sup>。

領域 表現、保育内容 表現について書かれている論文をみても、音楽関連、造形関連、身体表現関連と専門的に絞って書かれているものの割合が高い。

## 2. 本学の領域—表現に係る

### カリキュラムの変遷及び内容

本学科は2007年に児童学科（平成2015年に児童教育学科に名称変更）として開設され、小学校及び幼稚園教諭・保育士の免許・資格取得を目指す学科としてスタートした。開設当初の保育内容の表現分野に関しては1年次に「児童音楽」「児童造形」をおき、2年次に「保育内容（音楽表現）」「保育内容（造形表現）」をおき「領域—表現」の学びを担ってきた。やはり本学においても、音楽と造形を主とした授業形態となっていた。5年目の2011年度よりは、1年次の「音楽表現」「造形表現」において音楽及び造形表現の基礎を学び、3年次の「保育内容（表現）」において、音楽や造形といった限られた表現活動だけではなく、領域—表現としての捉え方や様々な表現活動に関する実践演習

を行ってきた。

1年次の音楽表現・造形表現は通年の30回の授業であるが、保育内容（表現）は半期15回の授業である。1年次の音楽表現の授業の最後には、劇遊びという形で音楽表現・言語表現・造形表現・身体表現を総合した演習の発表をしている。が、まだこの時期では、乳幼児の表現の捉え方についてしっかりと認識するところまでは到達しておらず、自分たちが演じる・表現することでまだ精一杯という段階で終息していると思われる。もちろん、そういった総合的な表現活動を学生自身が経験することは十分に意義のあることではあるが、乳幼児の表現が信頼できるまわりの大人（保育者や養育者）によって肯定的に受け止められ理解される状況でさらに豊かになることを考えると、養成校の学びにおいては、表現力の向上や指導方法の獲得だけではなく、いかに乳幼児の表現について正しい認識をもてるか、理解した上で乳幼児の表現をどのように促し環境を整えるべきかを学ぶべきではないかと考えている。そしてその理解を深める為には、直接的な体験が不足している傾向の学生自身が、実際に様々な事柄に心を動かして、考えたり工夫したりする実践的な演習が必要だと感じている。

よって、本学の「保育内容（表現）」のシラバス記載の到達目標は以下の3点である。

- ①理論や事例研究を通して、領域「表現」の考え方を理解し、自分で説明できるようになる。
- ②音楽・造形・言語・身体の動き他の様々な表現の手段を用いて、学生自らが豊かな感性や表現する力を身につける。
- ③幼児の表現に関する様々な教材に対する理解を深め、実際に現場で指導・援助が行えるようになる。

乳幼児の表現について学ぶのは、講義や事例研究が主ではあるが、実践的な演習においても、乳幼児の「表現」について様々な視点から直接体験として感じ取り学んで欲しいと考えている。

## 3. 本学で現在行っている保育内容（表現）の主な演習について

本学の保育内容（表現）では、主に8種類の演習を行っている。以下にその概要とそれぞれのねらいを示す。

①手の動きで表す感情表現

以下「感情」と表記する

方法：学生は以下の感情のくじをひく。

**安心**・**不安**・**不安**・**落胆**・**歓喜**・**悲哀**

翌週までに手の動きだけでその感情を表現できるような動きを約30秒間で考えてくる。

翌週、その動きを他の学生の前で発表し、他の学生は動きだけを見て何の感情を表現しようとしているかを当てる。

ねらい：課された感情についてイメージをまとめ、制限された動きの中でどのように表現すれば他の人に伝わるかを考える。

実際の様子：当日は表情からわかってしまわないよう面を被り表現を行う。発表学生は懸命に自分なりの表現を発表し、他の学生は何とか読み取ろうと真剣に見入っていた。

②体全体を使った身体表現 \*以下「身体」

方法：テーマによって、5・6人～10人位のグループになり、30秒程度で花を作り咲くから散るところまでを表現したり、公園にある遊具を選び全員の身体を使って表す。

ねらい：各自がイメージを膨らませて表現の方法を工夫し、他の人にもイメージを伝え調整しながら全員で一つの作品を作る。

実際の様子：花の表現は、座位又は立位で手や足を動かして動きのある表現をする。遊具は滑り台やブランコ・シーソーなどを遊具の形状や動きに着目して表現する。

③五感をつかった描画活動 \*以下「描画」

方法：言葉に合わせて（「ぐるぐる」「クルクルクル」等）自由に線描き遊びをしたり、視覚と詩触覚・視覚と味覚といった普段ではあまりしないような表現方法で絵を描く。

例）甘そうな模様・痛そうな模様 等

ねらい：普段使わないような感覚を研ぎ澄まし、工夫して描く。あまり上手下手が関係ない絵になるので、自由に自分の想いを表すことの楽しさに気付く。

実際の様子：悩みながら描く姿が見られた。

④新聞紙による製作表現 \*以下「新聞」

方法：3人グループになり、それぞれにテーマを決めて身につけるものや付随する小物を製作する。一人がモデルになり最後のファッションショーでは工夫した点を発表する。

ねらい：新聞紙という素材について知り、少人数のグループの中でそれぞれ自分の意見を積極的

に出し合い一つの作品に仕上げる。

実際の様子：ドレス・着物・アニメのキャラクター等を新聞紙や広告紙を簡単な作業（切る・貼る等）により形にしていく。毎年最も学生達が盛り上がる演習である。

⑤様々な葉っぱを探そう \*以下「葉っぱ」

方法：3種の緑色の紙片を受け取り、大学近くの草むらで同じ緑色の葉を探す。また、自分の好きな形の葉を5種類探す。さらにそれぞれの葉を触った感触を言葉で表記する。

ねらい：身近な自然に積極的に目を向けて関わる。また、自分のイメージや想いを言葉でうまく表現する。

実際の様子：3つの緑色は微妙に異なる色にしてあるので、学生同士で見合ったり譲り合ったりしながら真剣に探す姿が見られる。言葉で表現するのは、単に「すべすべ」「つるつる」といった表現だけでなく、「ビロードのような」「触るとチクチクする感じ」等何かに例えたり状態を説明する学生もいる。

⑥詩の語り \*以下「語り」

方法：詩人の金子みすゞさんの詩のうち、担当者が候補に挙げた25編の中から自由に3編を選び皆の前で語る。

ねらい：作品に込められた作者の想いを読み取り、聞いている人に伝わるように感情豊かに語る。

実際の様子：「語る」ということの経験の少ない学生が多く、詩の内容は結構読みとれているのに大半が音読のようである。が中には感情を込めかつ表情豊かに語り、他の学生を驚かせる学生もいる。

⑦絵本の台詞に音楽をつける \*以下「作曲」

方法：「ぐりとぐらのえんそく」の絵本の中の担当者が指定したリズムカルな台詞の中から好きなものを選び、自由に曲をつける。

ねらい：絵本の中の台詞のイメージを自分なりに読み取り、自由な調性・リズムで自由に曲を作り、ピアノ演奏と共に発表する。

実際の様子：・ピアノのレベルによって両手伴奏の学生から片手で懸命に弾きながら歌う学生まで様々であるが、台詞の雰囲気から逸脱した作品は一つもなくどれも個性的で他の学生の曲を楽しそうに聞く姿がある。

⑧ピアノによる弾き歌い \*以下「ピアノ」

方法：授業の3・8・15回目に弾き歌いを行う。毎回曲も楽譜も自由に選び弾き歌いをする。



ねらい：弾き歌いの技術を身につけると共に、他の学生の発表からいろいろ刺激を受ける。

実際の様子：レベルによってまちまちであるが、回を重ねるごとに曲のイメージに合った伴奏譜を探してきたり、他の学生の弾いた曲に挑戦する姿が見られる。

以上の8つの演習を表現活動として大きく分類すると以下の通りとなる。

身体表現	感情・身体	言語表現	語り・葉っぱ
造形表現	描画・新聞	音楽表現	作曲・ピアノ

## II. 研究の目的

これまでの本学の「保育内容（表現）」の授業内容のうち、学生自身が行う実践的な演習の内容を再検討し、学生自身がどのような教育効果を実感しているか、何をどう学んでいるかを検証することで、来年度からの教職課程コアカリキュラム作成に際し、より効果的かつ実際の保育の現場で活かすことのできる演習の内容・方法を探ることを目的とする。

## III. 方法

保育内容（表現）における主な8種の演習について、それぞれの演習の3つの到達目標に対する教育効果を予想し、2種類のアンケートの結果からその実際を探る。

### 1. 調査対象

千里金蘭大学の児童教育学科の以下の2グループを対象とした。

\*今年度前期「保育内容（表現）」履修の

3年生 40名

\*今年度前期「キャリア演習D」履修の

4年生 24名

3年生40名の中には、将来的に保育現場への就職を希望する学生をはじめ、小学校教諭が第一希望の学生、とりあえず資格・免許を取得することを現段階では目的としている学生が混在している。4年生は、昨年3年次に「保育内容（表現）」を履修した後8月と2月に保育所実習、12月に施設実習、4年次の6月に幼稚園実習を既に経験している。さらに、資格・免許を取得することだけを目的とするのではなく、卒業後に保育関連の就職を希望し、現在就職活動をしている学生である。

### 2. 調査時期

2018年7月

## 3. 調査方法

アンケートによる調査を行った。研究の目的を書面及び口頭で説明し、2種類のアンケート調査を協力依頼した。

<アンケートの質問内容>

(1) 8つの演習それぞれについて、以下の4項目で授業の達成度を5段階で尋ねた。

A 乳幼児の表現について考える機会となった	<選択肢>
B 自ら表現することの面白さや楽しさを感じた	1 とてもそう思う
C 自分自身の感性が豊かになった	2 ややそう思う
D 保育の参考や保育技術の向上につながった。	3 どちらでもない
	4 あまり思わない
	5 全く思わない

(2) 8つの演習のうち、3つの達成目標毎にとっても有効だと感じた演習を2つ選び、その理由を自由記述で書いてもらった。

## 4. 分析方法

数量的なデータに関しては、全体的な傾向や比較が容易なように統計的に処理した。自由記述の回答については、記述の内容でグルーピングし、同様の意味内容の同じものを集めその数をカウントした。その中で、4回の法定実習を経験した4年生と、まだ実習経験のない3年生では何らかの意識の違いがあるのかについても検証した。

## 5. 予想される教育効果

3つの到達目標においてそれぞれの演習にどのような教育効果があるか、それぞれのねらいから以下のような予想を立てた。

表1 到達目標毎の各演習の教育効果の予想

	①	②	③
感情	△	◎	○
身体	○	◎	○
描画	△	◎	△
新聞紙	○	◎	◎
語り	△	◎	◎
葉っぱ	◎	◎	○
作曲	△	◎	○
ピアノ	△	◎	◎

①②③はシラバス記載の到達目標

◎十分に教育効果がある ○一応教育効果はある

△それほど直接的な効果はない

6. 倫理的配慮

調査を行う前に、研究の趣旨と目的、調査方法について書面及び口頭で説明し、無記名回答であること、個人の記述は統計的処理されるためプライバシーは守られること、調査は研究のためのもので成績評価に無関係であることを伝えた。

IV. 結果及び考察

(1) 授業の到達目標毎の各演習の達成度

本授業の到達目標は3つであるが、本研究では4つ目の項目としてBの「自ら表現することの面白さや楽しさを感じた」かどうかの項目を加えた。乳幼児がのびのびと表現することの意味や重要性を理解し、子どもたちを援助する保育者を目指す学生としては、自らが表現することの楽しさを十分に理解また実際に体感する必要があると考えたからである。

以下に演習毎および達成項目ごとに3年生・4

表2 各演習についての達成度の比較

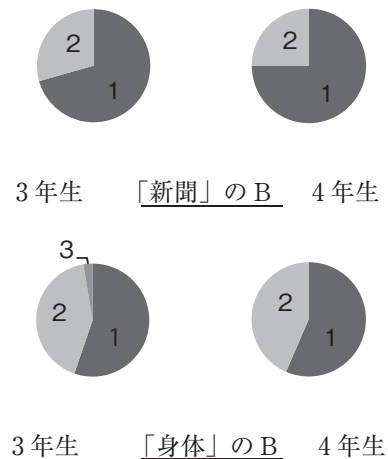
演習		3年生		4年生	
		平均	S D	平均	S D
感情	A	4.15	0.78	4.46	0.59
	B	4.05	0.83	4.38	0.71
	C	4.18	0.72	4.25	0.44
	D	4.26	0.75	4.33	0.64
身体	A	4.37	0.63	4.22	0.84
	B	4.17	0.56	4.09	0.51
	C	4.23	0.78	4.22	0.56
	D	4.46	0.60	4.48	0.65
描画	A	4.33	0.81	4.21	0.83
	B	4.36	0.90	4.42	0.78
	C	4.23	0.81	4.46	0.66
	D	4.28	0.83	4.42	0.59
新聞	A	4.59	0.56	4.29	0.89
	B	4.71	0.46	4.75	0.44
	C	4.32	0.68	4.42	0.58
	D	4.56	0.61	4.42	0.65
葉っぱ	A	4.37	0.69	4.22	0.80
	B	4.17	0.79	4.09	0.79
	C	4.23	0.69	4.22	0.60
	D	4.46	0.70	4.48	0.51
語り	A	4.08	0.72	3.79	0.78
	B	4.23	0.78	4.17	0.76
	C	4.23	0.81	4.38	0.49
	D	4.31	0.77	4.33	0.70
作曲	A	3.97	0.96	4.04	0.81
	B	4.33	0.77	4.29	0.81
	C	4.23	0.78	4.13	0.80
	D	4.44	0.79	4.33	0.76
ピアノ	A	4.51	0.72	4.38	0.65
	B	4.46	0.79	4.42	0.58
	C	4.44	0.75	4.46	0.59
	D	4.69	0.61	4.88	0.34

年生の比較を示している。3年生と4年生の回答の有意差の有無について調べるため、「1とてもそう思う」を5点、「2そう思う」を4点、「3どちらでもない」を3点、「4あまり思わない」を2点、「5全く思わない」を1点として項目ごとに得点を算出した。以下は3年生と4年生の平均点及び標準偏差（SD）を示したものである。

4年生の「語り」と3年生の「作曲」のAに関してのみ平均が4.00点台を切っているが、それ以外は4.00を超え高い値となっている。(1)のアンケートのように演習毎に達成度を聞かれた場合には、いずれの項目についても教育効果があると答えた学生の割合が高いことがわかった。学年差を検討するためにt検定を行ったが、3年生と4年生の結果で有意差はどれも見られなかった。

平均はほとんどが4.00以上であったが、その中でも特に点数の高い「新聞」「身体」のBの「楽しさを感じられたかどうか」については「1とてもそう思う」「2そう思う」と答えた学生がほとんどで、活動自体の楽しさを十分に感じる事ができたことが読みとれる。ただ、演習の活動自体の楽しさと教育効果がそれほど直接結びついていないこともわかった。

以下に「新聞」「身体」のBの結果を示す。



(2) 到達目標毎に自分自身で有効だと感じた演習について

次に、3つの到達目標を達成するために、8つの演習の中でいずれの演習が有効だったと感じたかの観点で学生が選んだ結果について検討することとする。

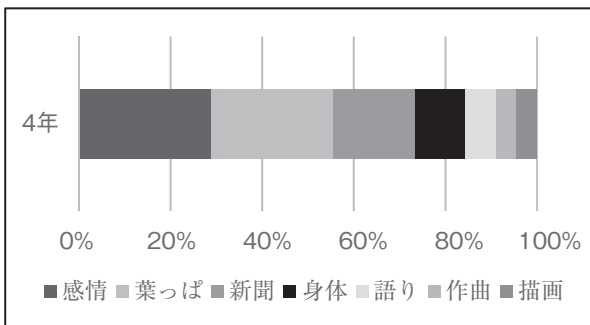
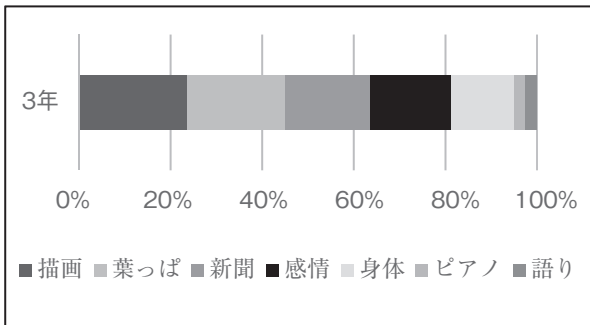
演習の選択については、達成目標毎にある程度の特徴はみられるが、その要因を探るため具体的理由を述べた自由記述の内容についてさらに検討

を行った。ただ、自由記述の中には3つの目標の中で混在していたりどちらでもない内容も少なからずあった。保育の3つの到達目標に関してははっきりと分けられない側面もあるので仕方がないと思われる。

以下、到達目標毎にその結果を示す。

表3 到達目標①について有効と感じた演習

①乳幼児の表現について正しく理解する					
3年			4年		
演習	選択	%	演習	選択	%
描画	19	23.8	感情	13	28.9
葉っぱ	17	21.3	葉っぱ	12	26.7
新聞	15	18.8	新聞	8	17.8
感情	14	17.5	身体	5	11.1
身体	11	13.8	語り	3	6.7
ピアノ	2	2.5	作曲	2	4.4
語り	2	2.5	描画	2	4.4
計	80	100	計	45	100



※4年生の中には1つしか選択しなかった学生が複数いる為、選択数が被験者の2倍になっていない。②③についての同様

表3では、①の到達目標に関して有効だと感じた演習を選んだ結果を示している。3年生は8種類の演習のうち「作曲」だけが選択されていない。また4年生は「ピアノ」だけが選択されない結果となった。また3年生では「描画」の選択の割合が4年生よりかなり高いという結果が示され、それに対して4年生では「感情」の割合が非常に高くなっている。

以下は、各演習で学生が具体的に何をどう学ん

だと感じているかについて、自由記述の中から内容的に同じものをまとめカウントし、その中から割合的に多かったものを取り上げ選択数・割合と共に示している。

① 感情表現

- ③年生 4位 17% 選択数合計14
- ・手だけでの動きからでも子どもの心が読み取れる 4 (28%)
  - ・手だけでもいろいろ表現できる 7 (50%)

- ④年生 1位 29% 選択数合計13
- ・手だけでの動きからでも子どもの心が読み取れる 9 (70%)
  - ・手だけでもいろいろ表現できる 2 (16%)

《実際の記述内容から》

- \*表情はなくても手だけの表現でも意外と伝わると思った。表情があればもっと伝わりやすいと思ひ表情の大切さに気付いた。
- \*友だちの表現を見ることで、いろいろな表現の方法があることを知った。(以上3年)
- \*実習の中でまだ言葉をうまく話せない子どもが身振り手振りによる感情表現をしていたので、手もよく観察することが大切だと思う。
- \*手を使って感情表現することで、乳幼児自身の「動き」による思いの表現に着目することができた。(以上4年)

3年生は、「手だけを使った表現でも感情など様々なことを伝えられる」ことに多くの学生が着目しているのに対して、4年生は「そういう子どもからのサインを見逃さずに読み取ることが必要だ」と感じている学生が非常に多いことが伺えた。実習を経験することで子どもとの関わりや内面理解について実体験からそのように感じたのではないかとと思われる。

② 描画表現

- ③年生 1位 24% 選択数合計19
- ・自由に描くことの楽しさを感じる 8 (42%)
  - ・人の作品を見てイメージが広がる 4 (21%)
  - ・同じテーマでも人によって様々だ 3 (16%)

- ④年生 7位 4% 選択数合計2
- 《実際の記述から》 (全て3年生)

- \*一人ひとりの表現の違いや良さに保育者は気付き反応することが大切だとわかった。
- \*子どもの気持ちになって描くことができた。
- \*ぐるぐる・柔らかそう等抽象的なものを想像して自分なりに表現する楽しさを感じることで

きた。

\*正解というものはなく、他者と違っていてもいいと思うと集中して取り組めた。

4年生は描画以外の演習において、子どもの気持ちを理解したり寄り添う必要性を感じているのに対し、3年生は今までにあまり経験のないような描画体験をしたことでの印象が強く、順位が高くなったのではないかと思われる。イラスト等の決まった形のものを描く活動に対しては苦手意識をもっている学生も「ぐるぐる」と言いながら自由にクレヨンを動かしたり、正解が無いようなイメージの絵を描くことで、自由にのびのびと描くことの楽しさやおもしろさを体感でき、自分以外の人の表現にも肯定的な目を向けることができたのであれば、今後の実習などにも望ましい経験だったといえよう。

### ③ 葉っぱ探し

**3年生** 2位 21% 選択数合計17

- ・子どもの個性が見られるだろう 9 (53%)
- ・自然と接して様々な違いに気付くことの大切さ 7 (41%)

**4年生** 2位 27% 選択数合計12

- ・子どもの個性が見られるだろう 6 (50%)
- ・自然と接して様々な違いに気付く 2 (17%)

《実際の記述内容から》

\*人によって感性が違っていて、似ている色や好きな形を選ぶだけなのにそれぞれに選択が違うことを身をもって実感した。

\*葉っぱをわざわざ探しに行くことはとても久しぶりで、この歳でもワクワクしたり五感で感じられたので、子どもにとってはとても良い活動だと思う。(以上3年)

\*実習で園庭にある植物を見たり触る子どもの姿があり、どんな感触だったかを話し合う機会があった。

\*子どもの目線になって何かを夢中に探す経験はなかなか無い。「子どもだったら・・・」と考える良い機会になった。(以上4年)

葉を見つけに行くのは、通学路のすぐ横にある公園の草むらである。たくさんの葉が生い茂っていることはもちろん承知しているが、大学生になってなかなかじっくりと葉の観察をすることはないだろう。今回の3法令の改訂でも、表現の内容の中に「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりする」と直接的に

感じることができる形や色がクローアップされている<sup>(3)</sup>。初めこそ草むらの中に入ることに抵抗があったり、小さな虫の出現にも驚きの声をあげたりしているが、そのうちに夢中になって姿勢を低くして、お目当ての葉を懸命に探す姿が見られるようになる。少しの色の違いにも妥協せず葉を陽に透かしたり裏返して見たり、いろいろな行動をするのである。これこそ、周りの環境に積極的に自ら関わるといえることになるとと思われる。

### ④ 新聞紙での表現

**3年生** 3位 19% 選択数合計15

- ・イメージを共有し協力することの大切さを知る 5 (33%)
- ・新聞紙は自由にものが作れ  
手先の器用さや発想が豊かになる 4 (27%)

**4年生** 3位 18% 選択数合計 8

- ・子どもの気持ちになり自身のイメージが形になっていく楽しさを感じた 3 (38%)
- ・イメージを共有し協力することの大切さを知る 2 (25%)

《実際の記述内容から》

\*新聞紙の服作りは、想像力に加えそれを実際に作ることで表現力も養えてとても良い。

\*みんなの考えを踏まえて一つのものを作ることが、創造力と人の意見を聞くことにつながると感じた。(以上3年)

\*新聞紙製作の時間が一番子どもの様な気持ちになって楽しく活動できた。

\*自身の考えが形になっていく楽しさを知り表現することの良さを知った。(以上4年)

新聞紙での表現活動は、どちらの学年の学生にとっても、最も学生自身が楽しめた活動であったことは、満足度を5段階で聞いた(1)のアンケートの結果でも表れている。ファッションに興味のある年頃であることに加え、実際に学生の中からモデルを決めて授業内でファッションショーをするということで、気持ちも盛り上がったのだと推測できる。だが、単に大学生としてレクリエーション的に楽しむだけでなく、子どもの気持ちになれたということは重要だと感じる。



表4 到達目標②について有効と感じた演習

②自分自身の感性を豊かにし、感性を養う					
3年			4年		
演習	選択	%	演習	選択	%
描画	19	23.8	新聞	10	21.7
作曲	15	18.8	描画	8	17.4
語り	13	16.3	作曲	7	15.2
感情	13	16.3	語り	6	13.0
身体	9	11.3	身体	6	13.0
新聞	5	6.3	感情	4	8.7
ピアノ	4	5.0	ピアノ	4	8.7
葉っぱ	2	2.5	葉っぱ	1	2.2
計	80	100	計	46	100

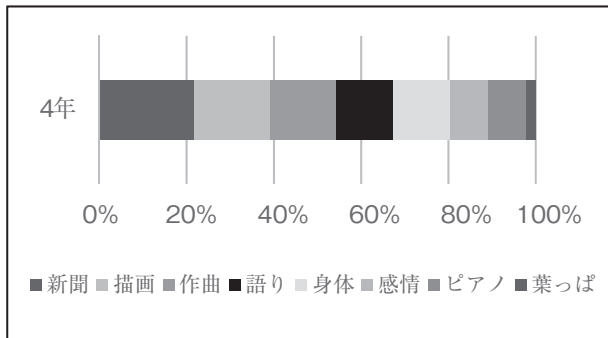
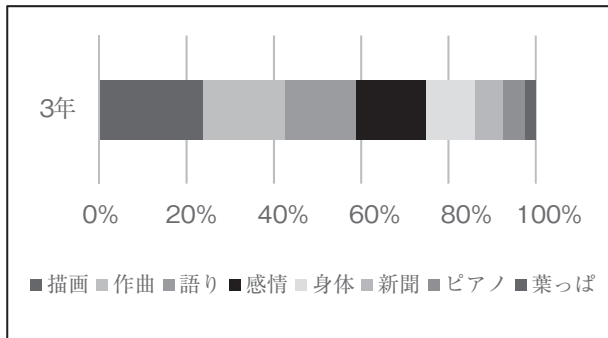


表4では、②の到達目標について有効だと感じた演習を選んだ結果を示している。

これに関しては、学生が選んだ演習の順位に学年でそれほど差はないように見受けられる。しかし、新聞紙を使った表現の順位が大きく異なり、4年生で1位であるのに対し3年生では6位となっている。

以下、①と同様に各演習で学生が具体的に何をどう学んだと感じているかについて、特徴的なもの取り上げ選択数と割合と共に示す。

① 新聞紙での表現

3年生 6位 6% 選択数合計5

・イメージを共有する楽しさと大切さに気付いた。 4 (80%)

・イメージし工夫して作ることで感性が豊かに 1 (20%)

4年生 1位 22% 選択数合計10

・イメージし工夫して作ることで感性が豊かに 4 (44%)

・イメージを共有する楽しさと大切さに気付いた。 3 (33%)

・表現する楽しさを実感した。 2 (22%)

《実際の記述内容から》

\*会話や活動を通して、自分のイメージを相手に伝えることを経験し、どう伝えたらよいかを考える大切さを体験した。(3年)

\*物を工夫して何かを作ることで、想像力が広がり製作することの楽しさを学んだ。

\*他の人のアイデアも取り入れながら1枚の平面の新聞紙が立体的に見えたり様々な表現ができるということ学んだ。(以上4年)

4年生の「新聞紙」は1位ではあるものの、他の描画や作曲等の演習と選択数はそう大差はない。自身の感性が豊かになったと感じる演習の一つと捉えていると思われる。一方3年生の「新聞紙」の順位があまり高くないのは、実践したのが今期のことで、新聞紙の活動自体は楽しかったけれど、その他の演習(描画・作曲・語りなど)の方が普段の生活で経験のない又は少ない内容のために新鮮で、より自身のイメージ・創造力を活性化させて取り組み、感性が豊かになったという印象が強かったためではないかと考えられる。

② 描画

3年生 1位 24% 選択数合計19

・表現の方法は様々なことに気付いた 9 (47%)

・新鮮で、のびのび描けて楽しかった 4 (21%)

4年生 2位 17% 選択数合計8

・様々な発想が浮かんだ 3 (38%)

・五感での表現は視野が広がった 2 (25%)

《実際の記述内容》

\*違う五感を合わせて描くのは難しく最大限イメージを膨らませ表現する力を養う。

\*同じテーマでもイメージは全く違って一人ひとりの個性がよく出ていた。他の人の表現を見れたことがとても良かった。

\*正解も上手下手も全くない世界で、自分の感性を磨くことができた。

☆音を絵で表す活動を通して、普段の生活にこんなにも音があふれていることに改めて気付いた。(以上3年)

\*描くことによってイメージし、描画で表すことでどうすればより伝わるか新たな気づきがあっ



た。 (4年)

普段あまり体験することのない「視覚」と「聴覚」や「触覚」の融合は、通常の思考のプロセスでは対応が難しく、自分がこれまでもっているあらゆるイメージ・創造力を総動員して対応する必要が出てくる。色と形などの視覚的な要素は、他の感覚から導かれた要素と全く無関係なまま存在している訳ではない<sup>(10)</sup>。こういう体験がイメージ力を養い、表現する力となっていく。それぞれのイメージの自由表現だからこそ作品は個性的といえる。4年生はいくつかの実習を経験し、子どもの表現が実に多様であることを直接観察し実感しているが、3年生には同じテーマを与えられても出てくる表現は多種多様でどれにも個性が表れ、同じものが二つとしてないことを、この演習で自分たちが表現することで改めて実感したのではないかと思われる。

3年生の☆の記述は、絵を描くことから波及して、身の周りの音の世界に目を向けていて、まさに感性を豊かにする体験となったのではないかと感じる。

### ③ 作曲

**3年生** 2位 19% 選択数合計15

- ・歌詞の状況を理解し、自分なりにイメージして作ること
- 表現力がつく 8 (53%)
- ・他の作品の個性や良さに気付く 3 (20%)
- ・音で表現することを楽しむ 3 (20%)

**4年生** 3位 15% 選択数合計7

- ・歌詞の状況を理解し、自分なりにイメージして作ることで表現力がつく 2 (29%)
- ・他の作品の個性や良さに気付く 2 (29%)
- ・音で表現することを楽しむ 2 (29%)

《実際の記述内容から》

\*絵本の場面に合わせ登場人物の思いや音を想像し、このようなメロディを作りたいと試行錯誤して表現力を養えたと思う。 (3年)

\*自分で曲やリズムをつけることによって、自身の表現する楽しさや他の人の曲の良さに気付くことができた。 (4年)

\*この課題が一番、学生それぞれの個性を見ることができた。 (4年)

自分でオリジナルの曲を作るという経験のない学生が3・4年とも9割以上で、特に入学時にピアノ初心者で、音楽の知識が1年次の基礎的な内

容に留まる学生は戸惑いを見せた。もちろん他の演習よりはかなり事前に（1か月前）に内容を知らせ、少しずつ準備するように伝えてはいるが、何をどのようにして進めていけばよいかわからない学生も少なくない。授業担当者は、絵本の台詞の状況を掴み自分なりのイメージを膨らませ、まずは鼻歌から始めるようにアドバイスをしている。自分のイメージと音をすり合わせていくという作業は、表現以外の何物でもないといえよう。発表後の授業レポートからは、「初めての経験で最初はどうすればよいかわからなかったが、少しずつメロディーができてくると何だか嬉しく気持ちになった。」や「同じ台詞を選んでいても同じ曲が一つもなくそれぞれに個性を感じられ、友だちの曲を聞くのがとても楽しかった。」という内容の感想が多くみられた。確かに、音楽的な知識—たとえば作譜に関して—が少ない学生には楽譜にする作業はなかなか大変ではあるが、アンケートの中で「自分の音楽の知識で何が不足しているかに気付くことができた。」とあるように、現場に出て必要なスキルを再確認する機会にもなっていると感じる。

### ④ 語り

**3年生** 3位 16% 選択数合計13

- ・友だちの発表を聞き感情豊かに語ることの大切さに気付いた 6 (46%)
- ・作者の思いを読み取り表現することが大切だ 5 (38%)

**4年生** 4位 13% 選択数合計6

- ・作者の思いを読み取り表現することが大切だ 2 (33%)
- ・相手に伝わるように工夫をすることの大切さ 2 (33%)
- ・絵本の読むときにも活かせる 2 (33%)

《実際の記述内容から》

\*他の人の語りを聞いたり、実際に自分も語りをしてみて、様々な人や物の気持ちを表現することの大切さを感じた。

\*詩を見て、自分自身の感じ方によって読み方が変わるし、人が読んでいるのを聞いて自分と違うことを受け止めることは大切であると感じた (以上3年)

\*絵本などで内容を読み込み、感情を入れて読んだりする表現力につながってくると思う。

\*詩の世界観を自分なりに考えながら表現するの

で、感性が豊かになると思われる。声色や声の大きさ・間のとり方でそれぞれの表現力が表れると思った。(以上4年)

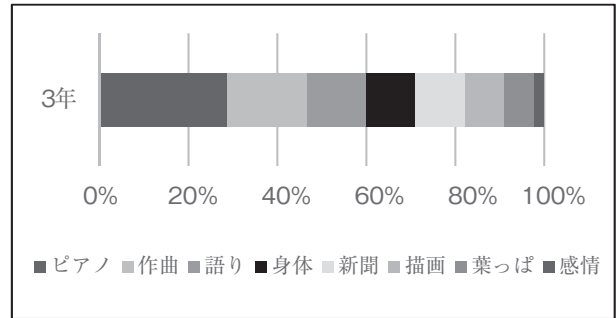
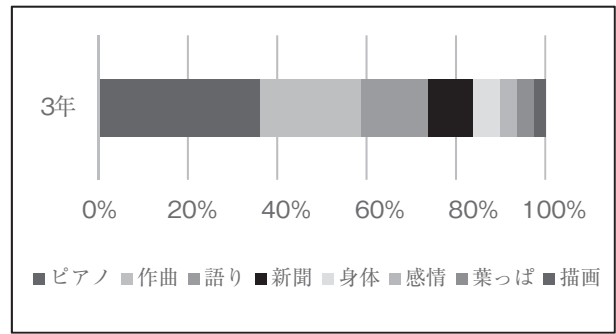
詩の語りは、今後の保育現場での絵本の読み聞かせや素話での語り、その以前に普段の子どもたちへの語りかけの際にも非常に重要なポイントとなってくる。聞きやすい声、トーン、速度、間、そして語る際の表情全てが重要になってくる。自分の声の様々な側面をよく知り、自分の声に対しての感覚を敏感にするということは、声の技能の獲得において大きな意味をもち、それにより声の表現力は格段に広がる<sup>(11)</sup>。しかし今回の詩の語りでは、この表面的で技術的な部分だけでなく、「詩を読みとる」という要素を加えたものである。言葉だけを単体で拾い上げてそれらしく読むのではなく、作者の状況や想いを詩の中から読み取り、それを自分なりに解釈してイメージを膨らませて聴き手に伝える事が重要だと考える。

先ほども述べたが、3年生はこれまでに言葉で感情深く語るような経験は少なく、音読のような学生が大半である。4年生も3年次に履修した際には同様の学生が多かったのは事実である。ただ4年生は、実習先で先生方が生き生きと子ども達に話したり、絵本の読み聞かせをしたり、実際に自分が読み聞かせの指導を受けて「表現豊かに語る(話す)」ことをある程度理解しているのに対し、少数の元来表現力の豊かな友だちの語りを見聞きして、初めて語りの意味を理解した3年生に「友達の発表を聞いて感情豊かに語ることの大切さに気付いた」といった内容のコメントが多いのではないかと推測される。

表5では、③の到達目標に関して、有効だと感じた演習を選んだ結果を示している。

表5 到達目標③について有効と感じた演習

③表現の教材への理解を深め、自らの保育技術を高める					
3年			4年		
演習	選択	%	演習	選択	%
ピアノ	29	36	ピアノ	13	28.9
作曲	18	23	作曲	8	17.8
語り	12	15	語り	6	13.3
新聞	8	10	身体	5	11.1
身体	5	6	新聞	5	11.1
感情	3	4	描画	4	8.9
葉っぱ	3	4	葉っぱ	3	6.7
描画	2	3	感情	1	2.2
計	80	100	計	45	100



これも、②と同様に3・4年生でほとんど順位に違いは見受けられず、「ピアノ」「作曲」「語り」といった保育技術に関する演習の割合がかなり高くなっている。

① ピアノによる弾き歌い

- 3年生 1位 36% 選択数合計29
- ・子どもが歌いやすい弾き歌いの必要性に改めて気付いた 11 (38%)
  - ・ピアノに触れる機会が増えた 8 (28%)
  - ・3回の実践で技術が向上した 7 (24%)

- 4年生 1位 29% 選択数合計13
- ・ピアノに触れる機会が増えた 3 (25%)

《実際の記述内容から》

- \* 3回あったので少しずつレベルも挙げていくことができた。
- \* 身近な歌をどうやって楽しみながら歌えるかを考えられたし、複数回あるため継続する力がついた。
- \* たくさんある楽譜の中から好きなものを選ぶことで、子ども達が興味をもてるような曲を見つけることができた。(以上3年)
- \* 実習でピアノを弾いてみて、ただ弾くだけではなく、子どもに届くように歌わなければいけないと思った。
- \* 実習で、子どもに合わせて弾いたり、子どもの様子を見るが必要だと感じた。
- \* 自分の技術を磨き、他の学生の演奏を聞くことが自分の力量を確認することができた。

\*人のいいところ・工夫を学べた。（以上4年）

本学のカリキュラム的には、3年次のこの保育内容（表現）の授業で初めて弾き歌いに挑戦する学生も少なからずおり、計3回の弾き歌いの発表によって何とか実習までに経験をするといい学生もいるのが現状である。保育実習が目前に迫り、やっと弾き歌いも必要だと認識し始めた3年生の学生にとっては、授業の発表という必要に迫られた状況の中でも、とにかく弾き歌いの経験をできたことが良い機会だったと感じる学生が多かったことが自由記述の内容から伺えた。それに対して、4年生は必要性を感じるだけではなく、現場の先生方が毎日ピアノを弾き子ども達と音楽を楽しんでいる姿を実際に見てきているので、曲に適した伴奏方法や子どもにあった演奏に思いを寄せる学生が多いことがわかった。

## ② 作曲

**3年生** 2位 23% 選択数合計18

- ・絵本のイメージの必要性 5 (28%)
- ・現場では曲を作ることも必要 3 (17%)
- ・曲がつけば絵本がより楽しくなる 3 (17%)

**4年生** 2位 18% 選択数合計8

- ・音楽技術を高められた 2 (29%)
- ・言葉に音楽をつける楽しさを知った 2 (29%)

《実際の記述内容から》

- \*作曲できるようになると、表現遊びをした際や劇遊びで即興で弾けるようになる。
- \*メロデーや伴奏を作曲することはこれから必要な技術だと思う。保育の現場での劇の発表会などで役に立つと思う。（以上3年）
- \*絵本のイメージに基づき作曲することで、自分の中でイメージを整理することができ自分だけの曲ができる喜びを味わえた。
- \*リズムや音をつけるだけで物語の印象が変わる。（以上4年）

3・4年生で記述内容に大きな違いはなかったが、いろいろな保育の展開がより保育を楽しく深いものにするという事に気付いたような思われる。

## ③ 語り

**3年生** 3位 15% 選択数合計12

- ・言葉でいかに伝えられるかを考える機会になった 5 (42%)
- ・絵本を読むときにも生かせる 3 (25%)

**4年生** 3位 13% 選択数合計6

- ・内容をしっかりと理解することで感情を込められる 3 (50%)
- ・工夫することで伝え方が変わる 2 (40%)

《実際の記述内容から》

- \*絵本を読むときや子どもと話をする時に必要な、イメージや心情に合わせて声色や表情を変えろという技術に触れる機会となった。
- \*詩の情景や作者の思いを考え自分なりにどのように表現し伝えるかを工夫した。声や表情で表現の幅は大きく広がる事がわかった。（以上3年）
- \*実習で子どもに絵本を読むのに感情を込めて読めるようになったし、説明の時にも自分の想いを乗せて話せるようになった。
- \*詩の語りで、その詩の内容を理解して表す事が保育現場での絵本を読むことにもつながると思う。（以上4年）

②の到達目標のところでもこの「語り」は既に出てきており、詩の語りや素話だけではなく絵本の読み聞かせにも通ずるところがあると感じていた学生はいた。しかし、②では内容を読み取ったり、それによって自身の感じ方がどのように変化したかについて言及している記述が多かったのに対して、③の到達目標に関しては、普段の保育の中で子どもたちへの語りかけにも同じように声・トーン・速度等の工夫、加えて語る人の表情も大きく影響を及ぼすことに気付いた記述も多くみられた。

ここまで3つの到達目標に関して有効だと感じる演習についてのアンケート結果を見てきた。8つある演習の中で、いずれの中でも上位に入らなかった「身体表現」についても最後に触れておこうと思う。

## ④ 身体表現

**4年生**

- ① 4位 11% 選択数合計5/45
- ② 5位 13% 選択数合計6/46
- ③ 4位 11% 選択数合計5/45

**3年生**

- ① 5位 14% 選択数合計11/80
- ② 5位 11% 選択数合計9/80
- ③ 5位 6% 選択数合計5/80

《実際の記述内容から》

- ①乳幼児の表現の理解について



- \* 友だちと考えて、協力して一つのテーマの物を作る楽しさを味わうことができた。(3年)
- \* 実習で、言葉で説明が難しい時に体を使って表現することで伝わりやすくなった。(4年)

②自分自身の感性・表現力

- \* どのようにすれば人に伝えられるか、このイメージを表現するにはどうすればよいかということを考えたり、とにかくやってみることの大切さがわかった。(3年)
- \* 学生それぞれのセンスを生かしながら楽しむことができ、表現する楽しさを知ったと思う。楽しいという気持ちを知ることが大切だと思う。(4年)

③教材研究・保育技術の向上

- \* 表現する力だけでなく周りを見る力も必要だと感じた。(3年)
- \* 体を使った表現でいろいろなものができるということがわかった。(3年)
- \* 身体を使って表現できるので楽しく活動できると思う。みんなで話し合っ一つのものを作ることで達成感を味わえると思う。(4年)

身体表現の活動も①②③それぞれの達成目標に関していろいろな学びや教育効果はあったようであるが、今回のアンケートは特に有効だったものを選ぶという形を取ったので、いずれの目標についても上位にカウントされることはなかった。実際にグループで活動してみて、主に次のことを学んだことが自由記述から読みとれた。

- 1) 一人ひとりがしっかりとイメージをもつことの大切さ
- 2) 他の人に伝えたり、他の人の考えを受け入れることの大切さ、難しさ
- 3) 体を動かして表現することの楽しさ

全体的に見て、各演習の教育効果については、3年生と4年生で大きく異なることはなかった。しかし、やはり4年生は実際に複数回の実習で保育現場に赴き、子どもや保育者と直接関わることで、乳幼児の生の姿・発言・表情といった表現に触れたり、保育者の具体的な援助や保育活動を目の当たりにしてきたため、記述内容に実習での実体験や保育現場を知ったからこそその記述内容を垣間見ることができた。3年生も今後、これらの演習で培った表現力や保育技術を実習の現場で活かして欲しいものである。

V. まとめ

今回の結果から、達成度では「とてもそう思う」「ややそう思う」の割合が高く、いずれの演習においても少なからず教育効果を感じていたことが伺えた。3年生と4年生の達成度には大きな違いはあまり見られなかったが、コメントの内容にはやはり実習に赴いたことによる現場の経験が感じられる内容が数多くあった。特に「感情」の学びについては、予想していた教育効果と異なり、単に自分が表現して感性を豊かにするだけではなく、乳幼児の無意識の表現にまで目を向けていたことが伺えた。

だが、その中でも「どちらでもない」という比率が高い演習に関しては、こちらのねらいが十分に学生に伝わっていないことも考えられるので、学生が受け身で感じたり受け止めたりするだけではなく、実際の演習を経験した後でも構わないので、演習の意味や重要性など今後保育者となるために必要なことはしっかりと伝えるべきだと感じた。

研究を始める前に、8つの演習が3つの到達目標についてどういった教育効果をもたらすかについて予想をした。以下は予想と実際にアンケート結果を検討した後の結果である。

表6 教育効果の予想と検討後の結果

	①		②		③	
	予想	結果	予想	結果	予想	結果
感情	△	◎	◎	◎	○	△
身体	○	○	◎	○	○	○
描画	△	○	◎	◎	△	△
新聞紙	○	○	◎	◎	◎	○
語り	△	△	◎	◎	◎	◎
葉っぱ	◎	◎	◎	○	○	○
作曲	△	△	◎	◎	○	◎
ピアノ	△	△	◎	◎	◎	◎

到達目標を達成するために有効な演習では、目標毎におおよそ予想通りの結果が見られたが、個々の感じ方や既に兼ね備えている表現の技術も様々で個人差があるため、活動の楽しさは感じたがそれほど自身の感性が豊かになると感じていないものや、表現するのにかなり苦労はしたものの結果的に自分の表現力をつけるのに役立ったと感じるもの等があることもわかった。

VI. 反省及び今後の課題

今回の研究の各演習は、乳幼児の表現の理解、学生の表現力の育成、教材研究という3つに目を向けた内容ではあるものの、表現活動としては総合的なものとはいえない。今後は、カリキュラム

自体を工夫し十分に乳幼児の表現についての理解ができた段階での総合的な演習内容を行っていく必要があると感じている。

研究の方法に関していえば、特に自由記述について、学生各自が有効な演習だったと思われるものを選び、それに対して書いたコメントの為に、全てが演習のメリットのみに言及した内容になっていて批判的な内容は基本なかった。本来ならば全ての演習に対する全員のコメントを求めることで、苦手な学生や気が進まなかった学生の声も拾うことができたのではないかという反省がある。また、その教育効果がいずれの到達目標の項目にも関連していて一概に分けることができなかつたり、うまくまとめて記載できていなかった回答も少なからず見受けられた。設問の仕方に問題があったようにも感じる。2つのアンケートの関連性についてももう少し検証する必要があると思う。

さらに、4年生の被験者の人数が少なく3年生と比較しても半分程度で、統計的には十分な結果と言うことは難しいかもしれない。継続した研究が必要といえよう。

コアカリキュラムの作成については、現行の授業の内容にIT機器及び実際の保育を組み立てる活動－模擬保育等の内容も盛り込んでいく必要がある。しかし、基本的に忘れてはいけないことは、保育者養成ということで保育の技術的な方法だけに囚われることはせず、本来のこの領域（表現）という本質、乳幼児にとっての表現することの意味を、保育する者自身が表現することの楽しさ・自由さ・可能性を理解し体感した上で、それをどのように子どもに伝えるかという観点から捉えることが大前提になると思われる。

#### <参考文献・出典>

- (1) 「幼稚園教育要領・保育所保育指針の成立と変遷」 民秋言 編 萌文書林 2008年
- (2) 「領域 表現 事例で学ぶ保育内容」 無藤隆 浜口順子 萌文書林 2007年
- (3) 文部科学省 幼稚園教育要領 2017  
厚生労働省 保育所保育指針 2017  
内閣府 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 2017
- (4) 文部科学省 中央教育審議会答申 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」 2016年

- (5) 保育内容「表現」の指導に関する研究－幼稚園教育要領の変遷に基づいて－ 山内信子 清和短期大学紀要3 75～83 2017
- (6) 総合的な「表現」への取り組みⅠ 保育者養成校における「保育内容表現」の現状と課題 安村清美, 中原篤徳, 齊木美紀子 田園調布学園大学紀要5号 201～206 2010
- (7) 保育士養成課程における保育内容の研究「総合表現」授業実践に関する一考察 寺岡真知子, 松田由理子, 野崎剛毅, 黒阪陽一 国学院短期大学紀要25 A65～A82 2018
- (8) 子どもの表現活動の効果的指導方法に関する研究：身体表現・音楽表現・造形表現を考慮した総合的表現指導の観点から 松下茉莉香, 中村礼音, 小松真理子 鹿児島女子短期大学紀要 54 81～90 2018
- (9) 教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成(5)－「表現」に関わる教育内容研究知見に依拠して－ 劉麟玉, 宮下俊也, 宇田秀士, 横山真貴子 次世代教員センター研究紀要 4 259～265 2018
- (10) 子どもの表現を見る, 育てる 今川恭子・宇佐美明子・志民一成編著 文化書房柏文社 2005 P71-72 2005
- (11) 同上P50-51

